

大和川 亀の瀬を歩く

日時：2022年4月15日(金) 晴

場所：大阪府柏原市・奈良県王寺町

参加者：自然と環境科 16名

案内：国交省近畿地方整備局
大和川河川事務所

歩いたコース



亀の瀬って何

・亀の瀬は、大阪府と奈良県の府県境付近の大和川が大阪平野に抜けようとする狭窄部に位置している。竜田越えと知られ、古来から大和となにわを結ぶ交通の要衝であったが、地すべりが起きる地域として恐れられてきた。

・明治～昭和40年代に渡って数回大規模な地滑りが発生、大和川がせき止められ奈良県側は水没、また大阪鉄道（旧国鉄）の亀瀬トンネルが地中に埋まってしまった。

・以降、60年にわたって国交省により大規模な地滑り対策が行われている。

亀の瀬

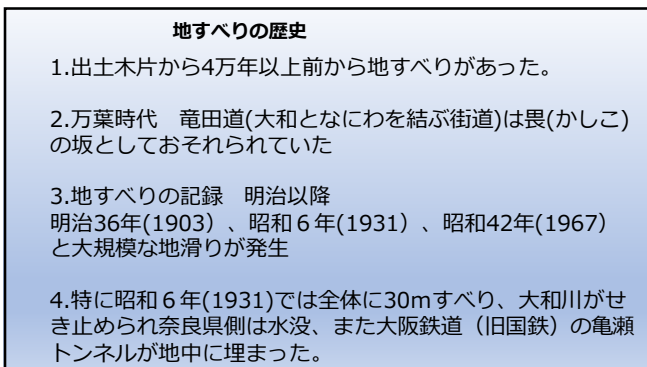


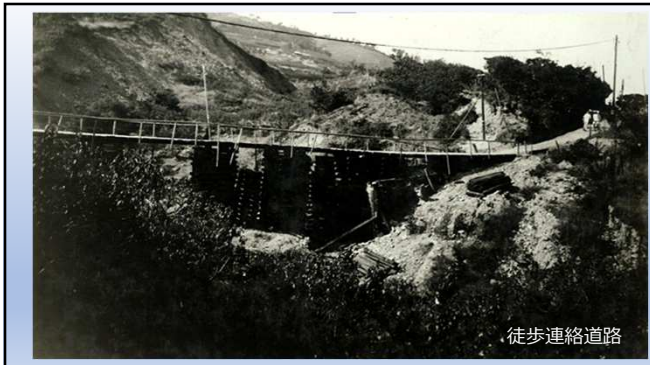
亀の瀬地すべり地帯



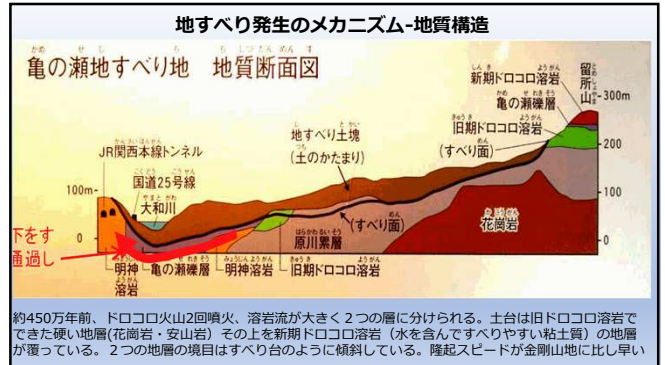
地すべり資料室



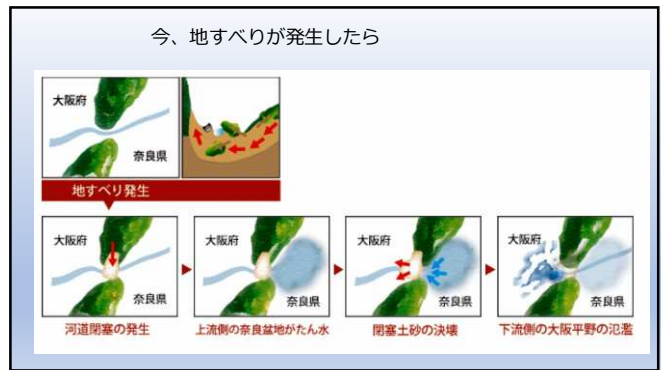




徒歩連絡道路



奈良県王寺町冠水

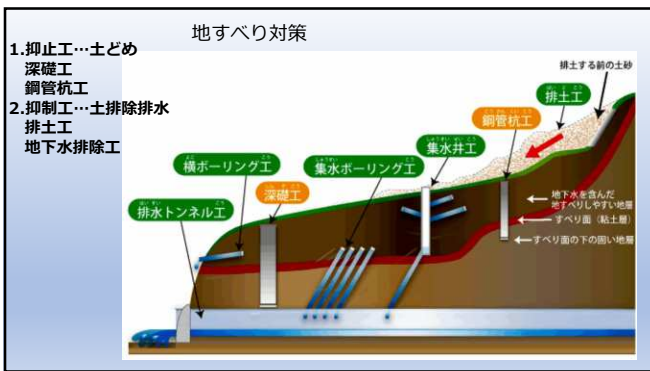


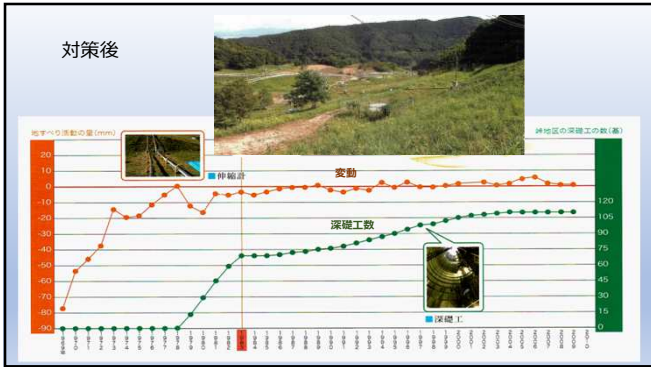


対策工事：昭和37（1962年）～

<電の瀬地すべり対策事業のあゆみ>

昭和36年(1961)	地すべりによる河川侵食の防止と上流治水
昭和6～7年(1931～2)	幹ブロックで地すべり発生
昭和10～19年(1932～4)	河川閉塞に備へた管渠(旧式急工事を内務省議議工事で実施)
昭和34年(1959)	地すべり防止区域(指定) (9.0ha)
昭和35年(1960)	集積による浸水防止
昭和37年(1962)	集積施工区域(指定) (9.0ha) 直轄工事等着手
昭和38年(1963)	排土工開始
昭和42年(1967)	清水谷下流部で地すべり発生。峠地区も含めて約50ha 地すべり防止区域及び集積施工区域追加指定(75.4ha)
昭和43年(1968)	集水井工、統制杭工開始
昭和47年(1972)	排水トンネル工開始
昭和52年(1977)	「電の瀬地すべり対策推進委員会」設置
昭和54年(1979)	清水谷下流部地区の排土工に関する基本的な考え方、や解体条件の検討。峠地区の地すべり防止区域追加指定(2.7ha)
昭和57年(1982)	集積施工区域の追加指定(2.7ha)
昭和58年(1983)	峠上流部地区で深礎工開始(508号完了)
昭和59年(1984)	「電の瀬地すべり防止工事業効果調査委員会」設置
昭和61年(1986)	清水谷下流部地区で深礎工(φ4m)開始(36号完了)
昭和62年(1987)	清水谷上流部地区で深礎工開始(φ6.5m)開始(2号完了)
平成15年(2003)	清水谷下流部地区で深礎工(φ5m)開始(119号完了)
平成22年(2010)	おんな地すべり対策工完了
平成22年(2010)	「電の瀬地すべり防止工事業効果調査委員会」設置
平成26年(2014)	集積工事における対策工を推進
平成26年(2014)	「電の瀬地すべり保全方策検討委員会」設置
平成29年(2017)	鶴葉山地区対策工の実施を完了
平成29年(2017)	鶴葉山地区排土工開始(130号完了)
令和元年(2019)	鶴葉山地区統制杭工開始予定





- 対策後現在の状況**
1. 植樹・公園・広場
 2. 地すべり集中監視システム
 3. 目に見える地すべり発生なし
 4. 投入費用850億円 << 想定被害4.7兆円
 5. 日本遺産に認定
→ 観光振興につなげる



現場見学



旧大阪鉄道 亀の瀬隧道



明神山の展望



明神山 (274m)



まとめ

- 1. 地すべり対策とは壮大な事業である
土石流・土砂崩れとはスケールが違うことを実感。
- 2. 大阪の防災は大阪湾の津波を想定しているが、同時に
後背地のことも考えなければならない。
- 3. 自然と環境科は、地球環境問題について学んでいます。
関心のある方は一緒に勉強しませんか。

明神山より亀の瀬俯瞰



大和川 亀の瀬を歩く

おわり



自然と環境科